

月世界の女 (1929)

DIE FRAU IM MOND

メディア 映画
ジャンル SF
製作国 ドイツ
色彩 B&W
時間 156分
初公開日 1931/01
公開情報 東和商事

【解説】

「メトロポリス」と並ぶ、F・ラングの独時代のSF古典で、ロケットが発射する際のカウントダウンはこの作品から生まれたのだと、後にラング自身語っている。仮にそれが彼の思い込みであっても、その場面のサイレント映画ならではの素晴らしいスリルに、ウソをまこととしても構わないほどだ。月に金が埋まると夢見るあたり、時代を感じさせるが、そんな下世話な動機があっこそ、冒険は始まる。主人公の飛行士は共に乗り込む親友の妻を秘かに恋しており、そこに腹黒いアメリカ人資本家が割り込んでの恋愛ドラマも盛り上がる。最後は、これも後のその種の作品のお手本となる、自己犠牲の美談で締め括られるが、それは観てのお楽しみ。技術顧問に、やがて米独に分かれて実際のロケット開発に貢献することになる科学者（ヴィリ・レイとヘルマン・オベルト）を迎えた本格SFである。

【クレジット】

監督	フリッツ・ラング	Fritz Lang
製作	フリッツ・ラング	Fritz Lang
脚本	フリッツ・ラング	Fritz Lang
	テア・フォン・ハルボウ	Thea von Harbou
撮影	クルト・クーラン	Curt Courant
	オスカー・フィッシングエル	
	オットー・カンツレク	Otto Kanturek
出演	ヴィリー・フリッチ	Willy Fritsch
	ゲルダ・マウルス	Gerda Maurus
	フリッツ・ラズプ	Fritz Rasp
	クラウス・ポール	